

令和4年度 当初予算（案）

# 主な事業の説明書

教育委員会事務局

款	項	目	大	事業	ページ
10	1	4	12	大仙グローバルジュニア育成事業費	9- 1
10	1	4	14	学校生活支援事業費	9- 2
10	1	4	21	キャリア教育推進「総合的な学力育成」事業費	9- 3
10	2	1	12	校舎等維持補修及び施設整備費（小・中学校費）	9- 4
10	3	1	12		
10	2	2	13	スクールバス運行事業費（小・中学校費）	9- 5
10	3	2	13		
10	2	2	14	コンピュータ及びインターネット設備経費（小・中学校費）	9- 6
10	3	2	14		
10	5	1	14	地域づくりアカデミー開催事業費	9- 7
10	5	3	18	太田文化プラザ改修事業費	9- 8
10	5	3	21	四ツ屋公民館改築事業費	9- 9
				学校給食事業特別会計	9- 10
				奨学資金特別会計	9- 11

※部ごとに款・項・目・大事业の順番とする。

# 事 業 説 明 書

10 款 1 項 4 目 12 事業

(施策の大綱)学校教育の充実

(施策)教育内容の充実

(基本事業)基礎学力の定着とグローバルな視野に立って学びを深める資質・能力の育成

継続

課所名： 教育委員会事務局 教育指導課

『事業名』 大仙グローバルジュニア育成事業費

【R4年度】 57,149 千円 【R3年度】 57,697 千円 【増減額】 △ 548 千円

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			272	56,877

※ALT住宅使用料返納金等

**1. Plan (計画：事業の目的及び目標)**

国際化の進展に伴い、重要視される国際理解及び外国語教育の充実のために、外国語指導助手(ALT)・国際交流員(CIR)を配置し、児童生徒の国際感覚、コミュニケーション能力の向上を図る。

また、グローバル人材の育成のために小学校外国語教育の指導体制を強化するとともに、児童生徒の体験活動の充実や教員の指導力向上のための体制整備の強化を図る。

**2. Do (実行：これまでの実績と成果)**

令和3年度はALT・CIR計10人を配置し、中学校外国語科の学習指導に加え、小学校における外国語活動・外国語科においてネイティブスピーカーとの授業が実施できる体制を整えている。そのうち、新型コロナウイルスの影響により新規ALTの来日が遅延したため、欠員を補充するために市会計年度任用職員(Non-JET)としてALT1名を任用している。

グローバルジュニア・マイスター育成事業では、令和3年10月末時点で、ブロンズ515人、シルバー140人、ゴールド59人、マイスター24人が認定されており、児童生徒の学習意欲の向上の一助となっている。

**3. Check (評価：問題と課題)**

令和2年度以降、新型コロナウイルスの影響により新規ALTの来日が遅延しているため、計画通りにALTの入替、配置を行うことが難しくなっている。そうした状況も踏まえつつ、ALT・CIRの配置校や授業時数を考慮しながら、児童生徒が活きた英語に触れる機会を保障することで、コミュニケーション能力の素地や基礎が一層養われていくよう、効率的で効果的な派遣になるように工夫、改善していく必要がある。

**4. Act (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)**

●外国語指導助手等招致事業 56,989千円

ALT・CIRを配置し、中学校外国語の学習指導及び小学校外国語活動・外国語科の学習指導等を実施。ALTの配置人数について、令和3年度はALT11人・CIR1人の配置を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により新規ALT7人のうち3人が来日できておらず、来日の見通しが立たない状況となっている。

今後については、小学校外国語活動・外国語科の授業時数の増加や、学校規模によって異なるALTによる指導のバランス等をふまえ、適切な配置としていきたい。

※令和4年度(予定)：帰国ALT1人、新規ALT4人(R3入替3人、R4入替1人)

【ALT・CIR配置予定人数】

	R3年度	R4年度	R5年度
ALT	9(※)	11	11
CIR	1	1	1
計	10	12	12

※うち1人はNon-JET

●グローバルジュニア・マイスター育成事業 117千円

児童生徒が海外の方々と英語等を使ったコミュニケーションや情報交換、観光案内など目的をもった交流活動を実施した場合に内容に応じてポイントを付与し、グローバルジュニア・マイスターに認定する。

●大仙イングリッシュ・デー 43千円

小・中学生を対象に、大仙市のALT・CIRとともに英語による活動及び交流を実施する。

●大仙グローバルジュニア・オンライン国際交流【ゼロ予算事業】

中学生を対象に、web会議システム等を活用した海外(英語圏)の方々とオンライン交流を実施する。

※「国際交流事業費(中学校費)」について、新型コロナウイルスの世界的流行によりオーストラリアへの中学生生徒海外派遣事業の実施が困難であるため、令和3年度に引き続き、令和4年度も大仙市内で外国語活動及び交流が可能な事業として、大仙イングリッシュ・デー、大仙グローバルジュニア・オンライン国際交流を実施することとし、本事業に予算を計上する。

# 事 業 説 明 書

10 款 1 項 4 目 14 事業

(施策の大綱)学校教育の充実

(施策)教育内容の充実

(基本事業)特別支援の教育の理解と充実・相談体制の充実

継続

課所名： 教育委員会事務局 教育指導課

『事業名』 学校生活支援事業費

【R4年度】 154,623 千円 【R3年度】 143,136 千円 【増減額】 11,487 千円

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
685			30,755	123,183

※地域雇用基金繰入金

**1. Plan (計画：事業の目的及び目標)**

小・中学校において、学校生活を送るうえで様々な配慮が必要な児童生徒に対して支援員を配置し、個々の実情に応じたきめ細やかな支援を行うことにより教育環境の充実を図る。

**2. Do (実行：これまでの実績と成果)**

学校生活支援員等の配置により、学校生活を送るうえで様々な配慮が必要な児童生徒に対し、きめ細やかで適切な支援ができています。

＜支援員等配置人数の推移＞

(単位：人)

職名	H29	H30	R1	R2	R3
①学校生活支援員	55	56	55	54	57
②日本語指導支援員	2	1	2	2	1
③学校生活看護支援員	1	1	1	1	1
④複式学級支援員	2	3	3	3	2
支援員(①～④)計	60	61	61	60	61
⑤教育アドバイザー	1	1	1	1	1

**3. Check (評価：問題と課題)**

児童生徒が減少傾向にある一方で、発達障がい等により、個々に応じた支援を要する場面が増えている。また、発達の過程や学校・家庭の環境の変化に応じて支援の必要性が高まるケースも増えている。各校の実情を考慮して、支援員を配置する体制を整えることが課題である。

**4. Act (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)**

・学校生活支援員等の配置

学校の実情・児童生徒の状況を考慮して支援員を配置し、児童生徒が安心して学べる学校生活を支援していく。

・教育アドバイザーの配置

特別支援教育アドバイザーとして、指導者及び支援員と面談し、特別支援教育の具体的な支援方法や学校体制について助言することにより一層の特別支援教育の充実を図る。

＜学校生活支援員等配置人数＞ (単位：人)

職名	R4
①学校生活支援員	56
②学校生活看護支援員	1
③複式学級支援員	4
支援員(①～③)計	61
④教育アドバイザー	1

＜要支援児童生徒数等＞

(単位：人)

年度	R1	R2	R3	R4	(対前年度比)
児童生徒数(全体)	5,222	5,096	4,999	4,889	(-2.2%)
要支援児童生徒数	445	454	477	544	(14.0%)
要支援児童生徒の割合	8.52%	8.91%	9.54%	11.13%	(16.6%)

・GIGAスクールアシスタントの配置

令和3年度、各小中学校に情報端末を整備したことに伴い、その操作支援等を担う支援員を配置。令和4年度も引き続き配置し、各小中学校におけるICT教育の充実を図る。

# 事 業 説 明 書

10 款 1 項 4 目 21 事業

(施策の大綱) 学校教育の充実

(施策) 教育内容の充実

(基本事業) 生きる力としての「総合的な学力」を育むキャリア教育の一層の推進

継続

課所名： 教育委員会事務局 教育指導課

『事業名』 **キャリア教育推進「総合的な学力育成」事業費**

【R4年度】 **2,844** 千円 【R3年度】 **2,840** 千円 【増減額】 **4** 千円

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
	<b>990</b>			<b>1,854</b>

**1. P l a n** (計画：事業の目的及び目標)

本市の教育目標に基づき、キャリア教育・ふるさと教育をより充実したものにするとともに、地域と関わる活動を通じて、ふるさとを愛する心を育て、地域の将来を担う人材の育成を目指す。

**2. D o** (実行：これまでの実績と成果)

- ・「大仙ふるさと博士育成」事業は、児童生徒が自ら地域と関わる活動に取り組み、ふるさとの良さの再確認や新たな発見に繋がっており、地域の将来を担う人材育成に有意義な事業となっている。  
(H28～R2までの認定者 初級 4,966人 中級 2,709人 上級 658人 名誉博士 118人)
- ・地域人権啓発活動活性化事業は、車いすバスケットボール体験や講演会を通して、障がい理解や障がい者理解を深めることができ、相手の立場に立った行動をしようとする人権意識の向上が図られている。

**3. C h e c k** (評価：問題と課題)

急激に変化する時代の中で、児童生徒に育むべき資質・知能を多面的に捉え、多種多様な教育機会を整え支援していくことが重要である。学校教育目標や地域社会の課題に寄り添ったニーズに応じ、より多くの教育機会を支えることにつながるよう多様に柔軟に事業を行う体制を整えていくことが課題である。

**4. A c t** (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)

- ①「大仙ふるさと博士育成」事業・・・234千円  
地域と関わる活動を通してふるさとを愛する心を育て、地域の将来を担う人材の育成を目指す。
- ②新聞読もうDAY事業・・・708千円  
小学3～6年生の児童には子ども新聞、中学生には中高生新聞を月1回配布し、新聞に触れる機会を増やし、地域や社会の動きに関心を持ち、主体的に関わろうとする意欲や態度を育てる。
- ③地域人権啓発活動活性化事業「人権ユニバーサル事業」・・・704千円  
障がい者スポーツ体験教室や講演会を通して障がい者理解を深め、人権について考える機会とする。
- ④プログラミング教育推進事業・・・17千円  
プログラミング教育の先駆者を講師として招いた研修会を実施し、教職員が児童生徒に質の高いプログラミング教育を指導できるよう支援する。 ※小学校・中学校とも3回ずつ計6回の実施
- ⑤教育アドバイザー設置事業・・・626千円  
1人を設置し、児童生徒の心の支援や保護者の教育支援、教職員の指導支援を継続して実施する。
- ⑥部活動指導員配置事業・・・555千円  
学校の働き方改革からの観点からの支援で、教員の部活動に係る時間軽減を図る。  
(令和3年度は協和中学校に1名配置。令和4年度は中仙地域へもう1名追加で配置予定)
- ⑦情報モラルいじめ対策事業 【ゼロ予算事業】  
県や警察署等と連携を図り、情報モラルに関する講演会を小・中学校で開催し、児童生徒が安全・安心にインターネット等を利用できるよう、啓発を図っていく。

# 事 業 説 明 書

10 款 2/3 項 1 目 12 事業

(施策の大綱) 学校教育の充実

(施策) 学校施設の充実

(基本事業) 快適で充実した学校生活のための環境整備の推進

継続

課所名： 教育委員会事務局 施設管理課

『事業名』 **校舎等維持補修及び施設整備費（小・中学校費）**

【R4年度】	76,865 千円	【R3年度】	49,431 千円	【増減額】	27,434 千円
【小学校費】	60,270 千円		36,650 千円		23,620 千円
【中学校費】	16,595 千円		12,781 千円		3,814 千円

※R4年度事業費の財源内訳

	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
【小学校費】			21,500	35,128	3,642
【中学校費】				13,631	2,964

※公共施設適正管理基金繰入金等

1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

学校施設の修繕、改修又は整備を図り、快適で安全安心な学校施設環境を提供することを目的とする。

2. D o（実行：これまでの実績と成果）

学校施設の破損等に伴う危険を回避するとともに、快適な学校施設環境の整備を図ってきた。

【大規模改修及び維持補修実績】

年度	H29	H30	R1	R2	R3(見込)
大規模改修 及び維持補修	受電設備, トイレ改修 等	受電設備, トイレ改修 等	受電設備 改修等	トイレ改修 等	トイレ改修 等
件数	285件	327件	281件	242件	220件

3. C h e c k（評価：問題と課題）

建築後30年以上を経過している校舎・屋内運動場が6割を超えていることから、今後改修に多額の予算を要すると予想されるため、長寿命化計画に沿って、計画的に改修を行っていくことで改修費の縮減や平準化を図る必要がある。

4. A c t（改善：今後の方向性とR4年度事業の概要）

【大規模改修工事等】

- ・緊急度又は危険度の高い次の大規模改修工事等を実施する。

(単位：千円)

事 業 名	概 要	事業費
大曲小学校校舎屋上防水（第2期）改修工事	屋上防水改修（カバー工法）	28,769
藤木小学校プール側面塗装改修工事	プール槽側面塗装改修	2,535
平和中学校校舎屋根改修工事实施設計業務委託	屋根改修	1,130
南外中学校校舎屋根改修工事实施設計業務委託	屋根改修	1,130
	合 計	33,564

【その他維持補修修繕費】

- ・学校要望による修繕及び突発的に発生する補修への対応費 43,301千円(小・中学校合計)

# 事 業 説 明 書

10 款 2/3 項 2 目 13 事業

(施策の大綱)学校教育の充実

(施策)学校施設の充実

(基本事業)快適で充実した学校生活のための環境整備の推進

継続

課所名： 教育委員会事務局 教育総務課

『事業名』 **スクールバス運行事業費（小・中学校費）**

【R4年度】	186,204 千円	【R3年度】	191,245 千円	【増減額】	△ 5,041 千円
【小学校費】	124,277 千円		123,827 千円		450 千円
【中学校費】	61,927 千円		67,418 千円		△ 5,491 千円

※R4年度事業費の財源内訳

	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
【小学校費】	6,974				117,303
【中学校費】	8,852				53,075

1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

学校統合により遠距離通学となる児童生徒等の通学難の解消を図るため、スクールバスを運行する。

- 目標：交通事故無し 年間0件

2. D o（実行：これまでの実績と成果）

直営又は民間委託により市内8小中学校で運行し、遠距離通学となる児童生徒の安全な登下校と通学難の解消が図られている。

3. C h e c k（評価：問題と課題）

少子化により利用者は減少傾向にあるが、学校統合が進むことにより遠距離通学区域が拡大してきている。また、現在市直営で運行している神岡・南外地域のバスについても、経年劣化による更新を検討する必要がある。

4. A c t（改善：今後の方向性とR4年度事業の概要）

（令和4年度事業の概要）

令和3年度をもって西仙北地域のスクールバス運行業務委託の契約期間満了を迎えることとなるが、令和4年度においても前年度と同様の業務形態で事業の継続を予定している。また、利用者の減少に応じて車両台数の減やバスサイズの縮小など柔軟に対応していく。

学校名	利用人数（人）	業務形態	経費（千円）	委託業者名	備考
神岡小学校	38	直営	887	/	1台
西仙北小学校	137	業務委託	64,629	未定(R4~R8)	
中仙小学校	58	業務委託	26,877	羽後交通株式会社(R3~R7)	
豊成小学校	57	業務委託	31,002	羽後交通株式会社(R3~R7)	
南外小学校	31	直営	882	/	小中共用3台
西仙北中学校	64	業務委託	31,005	未定(R4~R8)	
中仙中学校	53	業務委託	28,933	羽後交通株式会社(R3~R7)	
南外中学校	8	直営	1,989	/	南外小学校に同じ
合 計	446	/	186,204	/	

# 事 業 説 明 書

10 款 2/3 項 2 目 14 事業

(施策の大綱)学校教育の充実

(施策)学校施設の充実

(基本事業)快適で充実した学校生活のための環境整備の推進

継続

課所名： 教育委員会事務局 教育指導課

『事業名』 **コンピュータ及びインターネット設備経費（小・中学校費）**

【R4年度】	90,131 千円	【R3年度】	52,390 千円	【増減額】	37,741 千円
【小学校費】	65,950 千円		41,393 千円		24,557 千円
【中学校費】	24,181 千円		10,997 千円		13,184 千円

※R4年度事業費の財源内訳

	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
【小学校費】				3,733	62,217
【中学校費】				1,856	22,325

※モバイルルーター使用料

1. P l a n（計画：事業の目的及び目標）

文部科学省が提唱するGIGAスクール構想の推進により、児童生徒一人一人に個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現を図るとともに、日常でのICT活用、Society5.0の時代を生きる子どもの育成を目指す。

2. D o（実行：これまでの実績と成果）

令和元年度までに整備された、パソコンルームを中心とした学校ICT環境に加えて、令和2年度にGIGAスクール構想の推進として、児童生徒1人1台のタブレットパソコンを5,092台整備したほか、ネットワーク環境の充実、充電式PC保管庫の整備、教員向け研修等を行い、令和3年度には大型液晶ディスプレイを全普通教室に配置した。

GIGAスクール環境概要

児童生徒1人1台端末	5,092 台	教員用GIGAスクール端末	537 台
大型液晶ディスプレイ	245 台	充電式パソコン保管庫	224 台

3. C h e c k（評価：問題と課題）

GIGAスクールにおける活用目標は、日常の学びにおける自発的な課題解決手段になることであるため、全ての授業での活用が必要であるほか、持ち帰りによる自宅学習でも使用される必要がある。クラウドサービスに対応した授業支援システムや、モバイルWi-Fiルーターによるネットワーク環境が必要になっている。

4. A c t（改善：今後の方向性とR4年度事業の概要）

令和4年度事業の概要

（単位：千円）

項 目	小学校費	中学校費	合 計	備 考
【新】モバイルWi-Fiルーター通信費	4,172	2,086	6,258	学校体育館及び※家庭貸出用
【新】授業支援システム使用料	3,630	1,815	5,445	4,950ライセンス
学校情報機器保守業務委託費	9,631	5,368	14,999	
各種サーバー・ICT機器賃貸借費	46,583	13,286	59,869	
その他経費	1,934	1,626	3,560	修繕費等
合 計	65,950	24,181	90,131	

※Wi-Fi環境が家に整っていない家庭に対し、モバイルWi-Fiルーターの貸し出しを行い、使用料を徴収する。

（今後の方向性）

令和4年度でGIGAスクールにおける活用スタイルを確立させる。今後は学校個別のシステム調達を行わず、平準化されたICT環境の中で、学校間の連携と共同事業を推進し、学習効果の向上を目指して行く。

# 事 業 説 明 書

10 款 5 項 1 目 14 事業

(施策の大綱)生涯学習の推進

(施策)学習機会の充実と社会参加活動の支援

(基本事業)専門性を有した学習講座の展開

新規

課所名： 教育委員会事務局 生涯学習課

『事業名』 **地域づくりアカデミー開催事業費**

【R4年度】 **884 千円** 【R3年度】 **0 千円** 【増減額】 **884 千円**

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
				884

**1. Plan (計画：事業の目的及び目標)**

近年は経済的困窮や社会的孤立、子どもの貧困や虐待等の社会問題が顕在化しており、コロナ禍における社会環境の変化もあいまって、よりその課題が深刻化している。  
 このような中、大仙市民の一人ひとりが地域における「つながり」「絆」の大切さを見直し、創造的で充実した人生を送り、地域づくりや地域文化の創造に参加していただくための学習機会を提供することで、地域が元気になることを目的として開催する。

**2. Do (実行：これまでの実績と成果)**

**3. Check (評価：問題と課題)**

- ・人生100年時代を迎え、市民の学習したい分野はますます多様化しており、学習ニーズに応じた講師の選定が難しい。
- ・各界の第一線で活躍されている方々を講師に招くことを計画しているため、講演料等が高額になることが予想される。

**4. Act (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)**

●事業の概要

- 【内 容】：各界の第一線で活躍されている方々等を講師に招き、さまざまな観点からの経験と広い視野に基づいた講座を行う。
- 【開催日時】：令和4年9月から11月の土曜日 午後2時から午後3時30分  
 ※10月下旬から11月上旬開催予定の秋田県種苗交換会の時期を外す。
- 【会 場】：大曲市民会館を予定
- 【募集定員】：各講座100人程度
- 【受講料】：無料
- 【講座数】：2講座を予定
- 【経 費】：884千円
  - ・報 償 費：758千円（講師謝礼、宿泊費、交通費相当分等）
  - ・印 刷 費：95千円（チラシ、ポスター）
  - ・消 耗 品 費：31千円（長尺印刷用ロール紙、卓上花等）
- 【留意事項】：新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、状況に応じてオンライン開催も検討。

●今後の方向性

将来的には各地域での開催を視野に入れ、支所の地域活性化推進室との連携を図り、地域枠予算を活用し開催することを検討していく。

# 事 業 説 明 書

10 款 5 項 3 目 18 事業

(施策の大綱) 行財政運営の効率化

(施策) 公共施設の効率的な運営

(基本事業) 施設の長寿命化の推進

継続

課所名： 教育委員会事務局 生涯学習課

『事業名』 太田文化プラザ改修事業費

【R4年度】 67,443 千円 【R3年度】 77,134 千円 【増減額】 △ 9,691 千円

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		64,000	3,443	0

※公共施設適正管理基金繰入金

1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)

生涯学習活動や地域活性化活動の拠点施設として市内各地域に公民館が設置されている。安全・安心に利用していただくためにも築年数の古い公民館については公共施設等総合管理計画に基づき改修・改築を検討するとともに、緊急性の高い案件については修繕等により即時対応し、長寿命化を図りながら施設の維持管理に努めることを目的とする。

2. D o (実行：これまでの実績と成果)

- 【平成28年度】 太田生活改善センター（太田公民館）を一部解体し、公民館事務室を太田庁舎内に移転
- 【平成29年度】 太田庁舎に隣接する太田文化プラザ遊休スペースを、減築した公民館機能の補完と地域防災拠点として利用するため改修工事の実施設計（建築分）
- 【平成30年度】 空調設備に関する改修工事の実施設計
- 【令和元年度】 屋上防水改修工事
- 【令和 2年度】 外壁改修工事（アスベスト除去含む）
- 【令和 3年度】 空調設備工事

3. C h e c k (評価：問題と課題)

- ・平成28年度の太田生活改善センター（太田公民館）の一部解体によって失われた生涯学習スペースを補いつつ、地域の防災スペースとして併用できるような改修が望まれている。

4. A c t (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)

当施設に生涯学習機能、集会施設機能、そして防災機能を集約することで、地域住民がより利用しやすく安心・安全な拠点施設を目指す。  
令和4年度は内部改修工事を行う。

【施設概要】

- 太田文化プラザ（正式名称：太田農村環境改善センター、太田庁舎となり）
- 昭和54年度建築（築42年経過） 鉄筋コンクリート造 2階建て 延べ床面積 A=1,814.69㎡

【事業概要】

工事請負費	65,104千円
工事監理業務委託	1,503千円
設計監理業務委託	836千円
計	67,443千円

【工事内容】

- ・風除室、正面スロープ、玄関内スロープの新設
- ・多目的ホール、生活実習室、玄関ホール、1階廊下の壁床の仕上げ改修
- ・旧食堂を防災調理、創作スペースへ改修
- ・全館LED化、1階2階のトイレ改修 等

# 事 業 説 明 書

10 款 5 項 3 目 21 事業

(施策の大綱) 行財政運営の効率化

(施策) 公共施設の効率的な運営

(基本事業) 施設の長寿命化の推進

継続

課所名： 教育委員会事務局 生涯学習課

『事業名』 **四ツ屋公民館改築事業費**

【R4年度】 **4,754 千円** 【R3年度】 **0 千円** 【増減額】 **4,754 千円**

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
		<b>4,500</b>		<b>254</b>

**1. P l a n (計画：事業の目的及び目標)**

四ツ屋公民館は昭和55年(1980年)に建築され築40年以上が経過しており、施設や設備の経年劣化に伴い運営コストが年々嵩んできている。また、耐震診断の結果、体育館については耐震補強対策が必要とされている。これらのことから四ツ屋公民館を建て替え「地域の拠点となる施設」として、生涯学習施設のみならず防災拠点としての役割を担う、地域住民が寄り添い、時代のニーズに対応した施設を目指すため改築を行う。

**2. D o (実行：これまでの実績と成果)**

施設の建設にあたっては、「四ツ屋地区コミュニティ会議」「四ツ屋地区新しいまちづくり推進プロジェクト委員会」が、地区住民の意見や要望を取り入れた「四ツ屋地区地域ビジョン(平成28年3月)」を作成している。このビジョンの方向性を尊重し、将来に向けたコミュニティづくりのモデル地域として新たな拠点施設を整備する必要がある。

【令和3年度の事業概要】

基本・実施設計業務委託(令和3・4年度継続費設定)  
 地形・路線測量業務委託 地質調査業務委託 用地測量業務委託

**3. C h e c k (評価：問題と課題)**

- ・経年劣化等による施設や設備の維持管理費が嵩んできている。また、耐震診断判定でも、体育館棟については耐震補強等の対策が必要である。
- ・少子高齢化は避けては通れない現実であり、その対策として施設のユニバーサルデザイン化が必要となる。

**4. A c t (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)**

四ツ屋公民館は施設や設備の経年劣化に伴い運営コストが年々嵩んできていることや、耐震診断の結果、体育館については耐震補強対策が必要とされている。

公民館周辺は保育園・小学校・児童クラブ等が集約する「拠点エリア」となり、生涯学習施設としてのみならず、地域住民全体の活動拠点となる施設として、更には防災拠点としての役割も担える施設として整備する。

【継続費】 四ツ屋公民館改築工事基本・実施設計業務委託

履行期間：令和3年7月19日から令和4年5月31日まで

業務委託料：25,696千円(年割額 R3：20,942千円 R4：4,754千円)

[今後の予定]

- ・基本・実施設計終了後、建築工事及び電気・機械設備工事を実施し、令和5年度秋頃の供用開始を目指す。
- ・令和5年度供用開始後に現在の四ツ屋公民館を解体し、令和6年度に外構を整備する。
- ・令和6年9月グランドオープン(予定)

# 事業説明書

(学校給食事業特別会計) 款 項 目 事業

(施策の大綱) 学校教育の充実

(施策) 学校施設の充実

(基本事業) 安全・安心でおいしい学校給食提供に係る衛生管理体制の一層の充実

継続

課所名： 教育委員会事務局 学校給食総合センター

## 『事業名』 学校給食事業特別会計

【R4年度】 1,318,499 千円 【R3年度】 1,044,589 千円 【増減額】 273,910 千円

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
3,042		242,700	323,441	749,316

※給食費納付金等

### 1. Plan (計画：事業の目的及び目標)

大仙市内の児童・生徒に安全安心な学校給食を提供し、学校給食の充実及び食育の推進を図る。

- ・目標：食中毒事案及び食物アレルギー事故 年間0件

### 2. Do (実行：これまでの実績と成果)

- ・衛生管理体制の強化のため、全給食センターが秋田県食品自主的衛生管理認証(秋田県HACCP認証)を取得している。

【各センターの秋田県HACCP認証取得状況】

総合	西部	中仙	仙北	太田
H26.10取得 (H28・R1年度更新)	H28.5取得 (R3年度更新)	H27.8取得 (R2年度更新)	H30.6取得 (R2年度更新)	H29.7取得 (R4年度更新予定)

### 3. Check (評価：問題と課題)

- ・各センターの建物、厨房設備及び機械設備等の経年劣化に伴う故障、不具合が年々増加しているため、大規模修繕工事や給食運搬車の更新等、今後も計画的な実施が必要である。

### 4. Act (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)

- ・児童・生徒の心身の健全な発達に資する安全安心な給食を提供していく。

【予算内訳】

施設区分	事業名	金額(千円)
全体	職員人件費、公債費、予備費	197,581
総合	運営委員報酬、給食材料費、車両費、管理及び運営費、調理運搬委託等 中仙学校給食センター改修事業費	918,606
西部	給食材料費、車両費、管理及び運営費	80,324
中仙	〃	37,379
仙北	〃	43,438
太田	〃	41,171

- ・仙北及び太田学校給食センターを統廃合し、総合・西部・東部の3か所体制とすることを目的とする。令和4年度に中仙学校給食センターの改修を実施し、令和5年度から太田地域の給食も提供する。

【中仙学校給食センター改修費(総計255,548千円)内訳】

主な細節	内容	金額(千円)
役務費	建築確認手数料	23
委託料	改修工事設計監理業務、改修工事管理業務委託	6,309
工事請負費	改修工事(建築分、電気設備、機械設備、厨房設備)	249,216

【5か所の給食センターにおける給食数将来像】

	総合	西部	中仙(東部)	仙北	太田	計
調理能力	4,000	1,500	1,000	900	1,000	8,400
R3食数	3,011	1,109	641	509	439	5,709
R5食数	2,946	1,044	981	500	廃止	5,471
R8食数	3,112	1,052	834	廃止	-	4,998

(今後の方向性)

※仙北・太田の認定こども園園児数を除く。

- ・施設の老朽化による維持費の増加や児童生徒数が減少していくことから、給食センターの統廃合に関する作業を計画的に進める。

# 事 業 説 明 書

(奨学資金特別会計) 款 項 目 事業

(施策の大綱) 学校教育の充実

(施策)

(基本事業)

継続

課所名： 教育委員会事務局 教育総務課

『事業名』 奨学資金特別会計

【R4年度】 25,908 千円 【R3年度】 26,909 千円 【増減額】 △ 1,001 千円

※R4年度事業費の財源内訳

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			22,307	3,601

※奨学資金貸付金元金収入他

**1. P l a n** (計画：事業の目的及び目標)

経済的理由で修学を断念することのないよう大学生等及び高校生に奨学金を貸与し、有能な人材の育成を図ることを目的とする。

- 月額奨学金(大学生等40,000円/月、高校生20,000円/月)を大学生等20人、高校生10人に貸与する。
- 特別奨学金(入学一時金：大学生等10万円、高校5万円)を大学生等10人、高校生5人に貸与する。

**2. D o** (実行：これまでの実績と成果)

(1) 市町村合併以降、357人の生徒・学生に奨学金を貸与している。

【過去5年間の新規貸与者数の推移】 (単位：人)

	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度
大学生等	17	8	10	15	11
高校生	4	0	1	0	0

(2) 21年度に有能な人材の地元定着を図るため、ふるさと就職者償還免除制度を設けた。令和元年度までに17人、令和2年度に6人、令和3年度には1人が条件を満たし償還金を免除した。

**3. C h e c k** (評価：問題と課題)

平成20年度以降、滞納繰越分の収納率が毎年低下していることから、滞納者の個々の実情を考慮しつつ、市民部債権管理課と連携を取りながら適切に対処する必要がある。

**4. A c t** (改善：今後の方向性とR4年度事業の概要)

【奨学金貸与額】 24,290千円

認定年度	種類	区分	人数	金額(千円)
令和4年度(新規)	月額奨学金	大学生等	20	9,600
		高校生	10	2,400
	特別奨学金	大学生等	10	1,000
		高校生	5	250
平成30年度～令和3年度	月額奨学金	大学生等	23	11,040
		高校生	0	0
			合計	24,290

【事務費】 24千円

【奨学基金積立金】 1,594千円

令和4年度に見込まれる元金収入等から奨学資金貸付金や事務費を差し引いた差額を基金に積み立てる。

(今後の方向性)

- ① ふるさと就職者償還免除制度の条件を満たし、令和3年度までに償還金が免除となった者が24人となった。今後も免除となる者が見込まれることから、免除により発生する歳入不足については、一般会計からの繰入金で対応し、基金の残高を確保していく。
- ② 償還金の滞納については、引き続き償還者の経済的事情も勘案しながら、分納を促すなど償還金の回収に努めていく。